

企画戦略委員	表英毅 (ソフトバンク)、鹿嶋正幸 (沖電気工業)	登録委員数	72名, 11社 (3グループ)
正副委員長 リーダー・サブ	委員長：岡崎浩治 (ソフトバンク)、副委員長：水口潤 (三菱電機)		図解
活動の目的・意義 (新テーマを含む)	- アクセスアプリケーションの高速化によるアクセス網のさらなる高度化、アクセス網技術を 5 Gなどの移動体網への適用などの新規技術の標準化を実施する。 - 各家庭の高速インターネットアクセスを支えるメタリックのDSL (デジタル加入者線) や光ファイバを用いた光アクセスシステムの国内標準化およびITU-T SG15への標準化提案を行う。 - 様々なアクセス網展開に対応するため、FTTdp (Fiber To The distribution point) などの光ファイバとメタリック回線のハイブリッドアクセス網や将来の移動体網のRAN (無線アクセスネットワーク) のための光アクセスアプリケーション技術についても検討する。		
活動する上での課題			
活動する上での課題	アクセス網技術の新たな適用分野として、5 Gによるネットワーク仮想化に伴い、データセンターの超大容量・高速化、新ケーブルやコネクタの開発や温度低減のために高圧直流電源化が課題となる。また、エッジコンピューティングの進化に伴い、データセンターの小型化などの新たな標準化分野としての検討の拡大が必要である。		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	【SWG2401 光アクセス網関連】 - 次世代移動体網のアクセス網構築に貢献するため、次世代移動体網のフロントホール/バックホール (MFH/MBH) におけるアクセス網の課題に関する調査報告書を作成する。今後、必要に応じてITU-T SG15/Q2で議論されている25G/50Gの次世代光アクセスシステムへのアップストリーム活動を行なう。 【SWG2402 DSL関連】 - TTC標準JT-G99x、JT-G.995xの制改定は当面必要ないが、1対の銅線だけを使用した既存DSLと全く異なる多芯DSLおよび高速DSLのG.fast の技術動向の調査を継続し、必要に応じて活動報告会などを開催し報告する。ITU-T SG15/Q4へのアップストリーム活動に関しては、ハイブリッドアクセス網SWGが担当する。また、スペクトル管理標準に関しては新たな課題の出現時に個別に対応する。国内でのメタリック回線によるDSLサービス終了に向けての将来課題の整理などが必要になる。		
国内外標準化団体動向	【SWG2401 光アクセス関連】 - 次世代の光アクセスシステムについては、5G移動体網のMFH/MBHに適用するシステムの議論が行われ、ITU-T SG15では一波長当たり10G超級のPONシステム、低遅延化技術、高信頼化技術、光ファイバ無線 (G.RoF) などの検討が進められている。IEEEではP802.3ca 50G EPON、802.1 Time-Sensitive Networking Task Groupにおいて低遅延化方式、P1914.3において無線信号をイーサネットで転送する方式 (RoE) の検討が進められている。 【SWG2402 DSL関連】 - ADSLやVDSLの国際規格としては、ITU-TにおいてG.fastの検討が活発であり、G.9701及びG.997.2の物理レイヤ仕様の協議がほぼ完了しようとしている。また、G.9960、G.9961のようなホームネットワーク関連のサービスの物理レイヤーについての協議が実施されている。		

別紙

重点取り組みと成果	【SWG2401】 - アクセス網を媒体に関係なくメタル、光ファイバによる無線区間以外の有線ネットワーク全般ととらえ、特に次世代移動体網のフロントホール/バックホールにおけるアクセス網の問題点を検討し、必要に応じてITU-T SG15 Q2で議論されている次世代光アクセスシステムへのアップストリーム活動を実施。 - 次世代光アクセス網SWGでは、関連SDOs等の次世代光アクセス技術の情報交換を行い、情報展開のセミナーを3月に企画。 【SWG2402】 - ハイブリッドアクセス網SWGでは、G.fast 等 の新規技術の調査するとともに海外の導入事例等の調査を継続。また、スペクトル管理標準に関しては新たな課題の出現時に個別に対応。 【SWG共通】 - データセンターにおける超大容量・高速化に伴う光ケーブル・コネクタ、高圧直流電源化や、5 Gの進化によるノードの仮想化・ソフト化に伴うエッジコンピューティングなどの新たなアクセス網技術の適用分野として、データセンターに関する標準化検討の必要性について検討会を設置し、各問題点について整理して技術レポートを作成する方向。
-----------	--

主な活動項目	概況指標	2019年度目標（当初計画時）	2019年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数		ITU-T SG15 WP1 (2019年7月) : 2件 ITU-T SG15 WP1 (2020年1月) : 6件	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG15 WP1 (2019年7月) ITU-T SG15 WP1 (2020年1月)	ITU-T SG15 WP1 (2019年7月) ITU-T SG15 WP1 (2020年1月)	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/1件 SDOsにおける次世代光アクセス技術調査報告書【SWG2401】	0件/0件/0件 → SWG240会合で光アクセス関連の標準化の情報交換を実施し、情報展開のセミナーを2-3月に開催予定。調査報告書は来年度作成。	
③ ダウンストリーム	数	0件	0件	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー（2019年1Q）【SWG共通】	2020年2-3月開催予定	
	記事投稿、講演会	TTCLレポート活動報告【SWG共通】	TTC Report 10月号 ITU-T SG15 7月会合報告【SWG共通】	

新テーマ及び重点取り組み	【SWG2401】 - アクセス網を媒体に関係なくメタル、光ファイバによる無線区間以外の有線ネットワーク全般ととらえ、特に次世代移動体網のフロントホール/バックホールにおけるアクセス網の問題点を検討し、必要に応じてITU-T SG15 Q2で議論されている次世代光アクセスシステムへのアップストリーム活動の実施。 - 次世代光アクセス網SWGでは、SDOsにおける25G/50Gの次世代光アクセス技術を調査し、調査報告書を作成。 - アクセスシステムの仮想化プラットフォームのメリット、ユースケースなどについてSDOs等での検討状況の調査報告書を作成。 【SWG2402】 - ハイブリッドアクセス網SWGでは、G.fast 等 の新規技術の調査するとともに海外の導入事例等の調査継続。また、スペクトル管理標準に関しては新たな課題の出現時は個別に対応。 【SWG共通】 - データセンターにおける超大容量・高速化に伴う光ケーブル・コネクタ、高圧直流電源化や、ノードの仮想化・ソフト化に伴う新たなアクセス網技術の適用分野として、データセンターに関する標準化検討の必要性について検討し、技術レポートを作成。本検討会と他の専門委員会との連携の実施。ネットワーク仮想化については、Network Vision専門委員会と協議。			
--------------	--	--	--	--

主な活動項目	概況指標	2020年度目標（当初計画時）	2020年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数		-	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG15 WP1（2020年9月）		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/1件 SDOsにおける次世代光アクセス技術調査報告書【SWG2401】	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	0件		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー（2020年4Q）【SWG共通】		
	記事投稿、講演会	TTCLレポート活動報告【SWG共通】		

アクセス網専門委員会の標準化領域 (ITU-T SG15 WP1 Q.1,2,4)

